

2026年1月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	18,999,820	16,972,486	111.9%
国内旅行	3,688,554	3,875,508	95.2%
訪日旅行	703,371	817,621	86.0%
合計	23,391,746	21,665,616	108.0%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	前年同月比
アジア	113.4%
オセアニア・南太平洋	96.4%
ハワイ・ミクロネシア	111.2%
欧州・中近東・アフリカ	122.4%
北米・中南米	100.6%

商品別	前年同月比
手配旅行	104.2%
企画旅行	126.2%

チャネル別	前年同月比
店舗	112.1%
オンライン	115.3%
法人	106.1%

■海外旅行

1月1か月間を通じて実施した、HIS 最大規模のセール「初夢フェア 2026」にて、価格重視から特別企画などの高付加価値商品まで様々な旅行プランを提供し、春休みやGWに加え、夏季出発の集客を強化すべく、早期予約の需要を喚起いたしました。また、イングランドのプロサッカー1部リーグ「プレミアリーグ」に所属し、ロンドンに本拠地を構えるトッテナム・ホットスパーFCと、オフィシャル・リージョナル・パートナー契約を締結したことで、スポーツの持つ刹那的な感動を旅行体験と融合させていく、新しい挑戦に取り組みました。取扱高においては、2025年は1月後半から春節による現地混雑や価格高騰を避ける動きがありましたが、2026年は1月全般を通じて日本発のレジャー需要が堅調に推移しアジアにおいて113.4%となりました。またユーロ高が進むヨーロッパ・中近東・アフリカ方面においても、前年同月比で122.4%と好調に推移しており、特にイタリア、エジプトが人気を博しています。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比111.9%の189億9,982万円となりました。

■国内旅行

「初夢フェア 2026」にて早期割引を実施したほか、北海道の流水関連ツアーなど間際の冬季商材を強化するとともに、春夏商品の拡充により先々の需要喚起に努めました。取扱高においては、強化方面である沖縄行きのパッケージツアーが年末年始の日並びの良さや増便もあり、家族旅行を中心に前年同月比105.2%と着実に伸長しました。また、自治体助成の活用により北陸も同105.0%と実績を伸ばしました。旅行需要が高水準であった前年に僅かに届かなかったものの、大型セールや特定方面の需要を取り込んだことで、概ね堅調な着地となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比95.2%の36億8,855万円となりました。

■訪日旅行

訪日旅行営業本部においては、提携販売プラットフォームにおける競争激化などに伴う受注鈍化が響き、前年同月を下回る結果となりました。一方、市場別では主力の北米団体旅行が全体を牽引したほか、大相撲や著名アーティストのライブ関連ツアー等の高付加価値商品が高い収益性を確保しました。また、オンライン販売の「知床オーロラ号」や東北の体験型ツアーも目標を上回る集客を記録しました。ジャパンホリデートラベルでは、中国団体旅行の減少が響き、前年同月を下回る結果となりました。一方で、大阪発の「美山冬燈籠と天橋立・伊根ツアー」が1,300名を超える集客を記録し躍進したほか、台湾市場へのセールス強化によりホテルやバス等の予約手配が前年比295.9%と大幅に伸長しました。東南アジア市場においてもフィリピンやシンガポール等を中心に堅調に推移し、重点エリアでの需要を取り込みました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比86.0%の7億337万円となりました。

2026年1月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比108.0%の233億9,174万円となりました。

2026年1月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	8,889,371	9,028,490	98.5%
アウトバウンド	14,552,596	15,276,702	95.3%
合計	23,441,967	24,305,193	96.4%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■ 海外インバウンド

ビーチ方面 (ハワイ・グアム) では、先月に引き続き日本からの受客が堅調に推移し、前年同月比 121.4%となりました。カナダでは、冬のアクティビティが人気を博し、ヨーロッパ諸国からのウイスキー・バンフ行きのレジャー需要を確実に取り込み、同 127.7%となりました。韓国では、前年との旧正月時期の差異による反動に加え、メディア露出を通じた販売強化が奏功し、釜山行きのツアーの需要を獲得し、同 115.8%となりました。

一方で、取扱高を牽引するヨーロッパでは、日本からの受客が堅調に推移したものの、一部地域における他アジア圏からの受客が減少し 98.6%となりました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 98.5%の 88 億 8,937 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

取扱高を大きく牽引するカナダでは、政治・経済的な影響によりアメリカへの渡航が低迷しているものの、カリブ海やメキシコといった温暖な地域へのレジャー需要が引き続き好調に推移し、前年同月比 102.7%となりました。アメリカでは、日系企業による現地新規出店に伴うホテル・航空券の手配受注を取り込んだことで、同 104.4%となりました。フランスでは、東京や京都といった訪日需要の増加に加え、政府関係機関からの受注が寄与し、同 186.2%となりました。

一方で、前年同月の海外アウトバウンド取扱高の構成比約 1 割を占めていたトルコ法人においては、現地の経済状況を踏まえ、ローカル向けのアウトバウンド事業を撤退したことから、同 97%の減少となりました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 95.3%の 145 億 5,259 万円となりました。

2026年1月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 96.4%の 234 億 4,196 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス

I R室 : 050-1746-4188

広報室 : 050-1746-4177